

# 「平成30年度全国学力・学習状況調査」の結果について

【富里市立富里中学校】

平成30年4月17日(火)に、小学校第6学年全児童、中学校第3学年全生徒を対象として、「全国学力・学習状況調査」が実施されました。本校の実施結果についてお知らせします。

## 1 生徒が受けた調査について

「国語A・B」、「数学A・B」、「理科」、「生徒に対する質問紙調査」の調査が実施されました。それぞれの内容は下記のとおりです。

### (1) 教科に関する調査

〔主として「知識」〕 国語A, 数学A, 理科	〔主として「活用」〕 国語B, 数学B, 理科
身につけておかなければ後の学年などの学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など	知識・技能などを実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力など

出題範囲：調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則

### (2) 生徒に対する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面などに関する調査

\*調査問題は「国立教育政策研究所」のHPで閲覧できます。

<http://www.nier.go.jp/18chousa/18chousa.htm>

## 2 本校生徒の調査結果

本校生徒の調査結果及び分析は以下のとおりです。

### (1) 教科の正答率について (※ 全国公立中学校の平均正答率(以下全国平均)との比較)

国語A(知識)	基礎的な言語活動や言語事項に関する知識・技能に関する問題	C
国語B(活用)	基礎的な知識・技能を活用する問題	C
数学A(知識)	数量や図形についての基礎的・基本的な知識・技能に関する問題	C
数学B(活用)	基本的・基礎的な知識・技能を活用する問題	C
理科(知識・活用)	『知識』に関する問題及び『活用』に関する問題	C

☆ 全国平均正答率との比較について

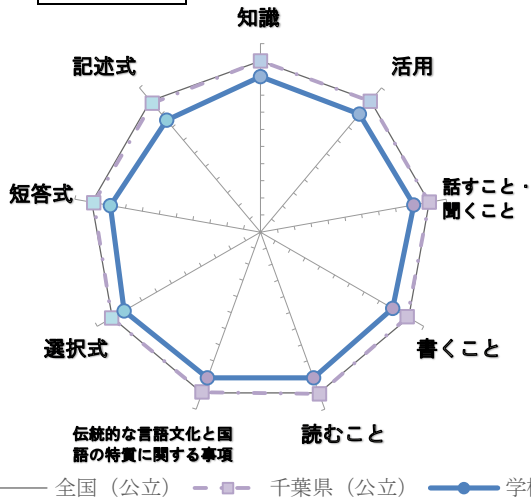
A：+5.0%より上回っている場合「良好」

B：+5.0%～-5.0%の場合「ほぼ同じ」

C：-5.0%より下回っている場合「要改善」

(2) 教科ごとの分析

国 語



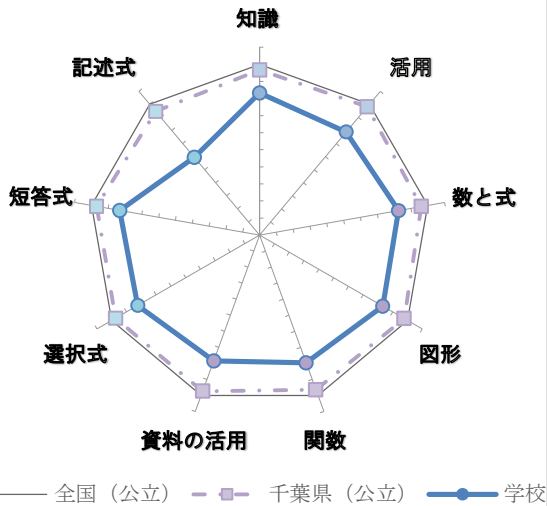
【特徴と現状】

- 国語はA・Bの両方とも平均点が全国・県に比べて5ポイント以上低いものの、国語Aより国語Bの方が、県や全国の平均と比べて開きが少ない状況でした。
- 話を注意して聞いたり、話し合いの話題や方向をとらえて話したりすることについて成果が出ているのは、昨年から「学び合い」を取り入れた成果と考えられます。さらに「学び合い」の質を向上させてまいります。
- 短答式では「目的に応じて文の成分の順序や照応、構成を考えて適切に文を書くこと」、「歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むこと」の理解が、全国と比べて大きく下回りました。

【改善方策等】

本校では各生徒各自でノートを準備して家庭学習を定着させていますが、国語を実施する生徒は少なく、行っても漢字の練習が中心となり、生徒自身も何を勉強していいのかわからないというのが現状です。そのため、説明文の読み取りや書き取り問題に対応できる学習プリントを準備する必要があります。千葉県教育委員会が提供している、「ちば『やる気ガイド』」の活用等を積極的に行い、多様な文章問題に触れさせていきます。

数 学



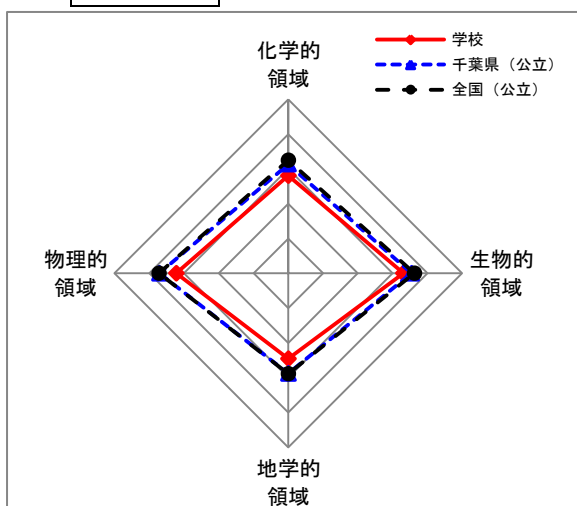
【特徴と現状】

- 「資料の読み取り」や「負の整数を読み取ること」、「単項式どうしの除法の計算」は全国や県平均に近い正答率でした。
- 選択式の問題では、「四角錐の体積と四角柱の体積の関係」や「比例定数の意味を理解して答えを導くこと」を苦手とする生徒が多いようです。
- 短答式の問題では、「試行の結果から得られる確率の理解」、「方程式の性質を用いて変形をすること」の正答率が、全国平均を大きく下回りました。
- 記述式の正答率が低く、「記述式の問題を最後まで解こうと努力したか」という質問に「最後まで書く努力した」と答えた生徒の割合は県平均を大きく下回りました。途中であきらめてしまう生徒が多いことが課題の一つです。

【改善方策等】

質問番号(29)「数学の授業はよくわかる」と答えた生徒が7割を超えていたものの、結果的にはA・Bどちらも正答率は低い状況でした。基礎学力の定着が求められますが、単に「基礎を教え込む」だけでなく、学習した内容を使って問題を解くような応用的な問題に取り組む時間を多く設け、基礎を「学んで使う」ことで、学力のさらなる定着を図ってまいります。

## 理科



### 【特徴と現状】

- 「脊椎動物と軟体動物の知識の活用」は全国・県平均より正答率が高く、「豆電球の点灯の様子と電力の関係」や「神経系のはたらきについての知識」、「食塩水の質量濃度パーセント濃度の指摘」は県平均と同等の正答率でした。
- 短答式の「オームの法則を使って抵抗の値を求めること」や選択式の「地震の揺れや主要動」についての理解が不足しています。

### 【改善方策等】

理科の授業では1週間に1回以上、確実に観察や実験を行っており、主体的な学びが展開されています。その結果から理科の授業内容はよくわかると答えた生徒が7割を超えたものと思われます。

しかしながら、それぞれの計算の公式が表面的にわかっているレベルでとどまっており、公式の意味まできちんと理解していない生徒もいます。そのため、グラフを読み取って計算するまでに至らない場合もあり、正しく計算できていない生徒も多く見られます。

計算の力については、「とみの国検定」の問題を活用し、今一度、小数や分数の計算の力を確実に身につけられるようにしてまいります。また、理科で学習する様々な公式については、より確かな理解につながるよう、授業中に丁寧に説明したり、子どもたちに考えさせたりする学習を取り入れてまいります。

### (3) 生徒質問紙の結果及び分析

- 質問番号(14)「学校の授業以外での学習時間」では、毎日2時間以上学習している生徒が全国や県平均よりかなりポイントが低く、学習量が不足しています。一方、質問番号(10)「家で、自分で計画を立てて勉強している」と答えた生徒の割合が県平均とほぼ同じでした。家庭学習に対する意欲や必要性を感じている生徒たちは多くても、学習計画の立て方が十分ではないと考えられます。家庭学習の進め方について、再度、学校でも指導していく必要があります。また、教科書を使った家庭学習が少ない傾向もあり、授業で学んだ内容が確実に復習できていないという心配もあります。ワークや資料集での確認も大切ですが、教科書や授業ノートを使って授業の復習を行い、基礎基本の定着を確実に押さえてまいります。
- 質問事項(15)「家での毎日の読書時間」で30分以上と回答した生徒の割合は、全国平均を上回っています。本校は読書が好きな生徒が多く、学校生活の中での毎朝の「朝読書」の確保が好影響を与えていると考えられます。
- 質問番号(7)「朝食を毎日食べる」や質問番号(9)「毎朝同じくらいの時刻に起きる」、質問番号(18)「学校の出来事を家の人に話す」の項目がどれも8割を超えていました。基本的な生活習慣を身につけ、家庭が安心して生活できる場であることは学力の基盤になりますので、引き続きご協力をお願いいたします。

### 3 まとめ

今年度の傾向は、「自分にはよいところがあると思いますか」「〇〇の教科は好きですか」という質問に対して、「あてはまる」と断言して答える生徒が少ないものの、「どちらかといえば好き」と答える生徒が多くいました。また、落ち着いて学校生活を送っているものの、「自分に自信がもてない」と感じている生徒が多い傾向がみられます。家庭学習や授業に取り組む姿勢を改善するなど、学力を少しでも向上していくことで「やればできる」という雰囲気を感じられる学校にしたいと考えています。

3教科の学力の正答率としては、全国や県平均に比べて低いという結果は出ているものの、ほとんどの学習内容が10ポイント以内に収まっています。基礎・基本の学力が定着するよう指導法を改善するとともに、難しい問題にも粘り強く取り組む態度も養ってまいりますので、ご家庭でも家庭学習の様子を見守っていただき、励ましてくださいますようお願いいたします。